

✿ 退職者のひとこと

定年を迎えて やった定年だ！)

1974年の入所以来、平城地区で13年間、飛鳥藤原地区で20年間の計33年間を一貫して発掘調査研究部門で過ごせたことは、私にとっては奇跡のように思われます。入所から数年間は、先輩方と議論をし、意見が通らないと



川越俊一さん

若気のいたりから、「辞めたるわ」と捨てぜりふを残していたようです。もちろん、私はそのような無礼な態度を取った記憶は全くないのですが、先日大先輩にお会いした時に、「あんたまだ勤めとったん」と声を掛けられ、どっと冷や汗が出るのを感じました。無事にここまでこれたことは先輩をはじめ、皆様のおかげと心より感謝しています。

研究所での業務の大半は、発掘調査とその整理に費やしました。発掘調査では、参加した各遺跡それぞれに思い出があります。今でもその時のメンバーの表情を含めて、進行状況がイキイキと蘇ってくるようで、誰もが羨むような第一級の遺跡の発掘調査に今後直接係れないことへの寂しさを感じる今日この頃です。

この33年間、皆様の御指導と助力によって、やりたいことをやらせて頂き、言いたいことを言わせて頂きました。本当にありがとうございました。

(都城発掘調査部長 川越 俊一)



山田寺南門の調査での一コマ(1989年)